

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 企業物価指数(2009年8月)

発表日 2009年9月10日(木)

～2ヶ月連続で過去最大のマイナス幅～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 中本 泰輔

T E L : 03-5221-4789

(単位: %)

		国内企業物価		消費財 (国内品)		国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価 (円ベース)		輸入物価 (円ベース)	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
07	9月	▲ 0.1	1.3	▲ 0.1	▲ 0.9	▲ 0.1	1.0	▲ 1.0	▲ 1.0	▲ 0.9	1.9
	10月	0.3	2.0	0.2	▲ 0.2	0.2	1.8	0.6	▲ 0.6	3.3	6.9
	11月	0.2	2.3	0.5	0.5	0.3	2.2	▲ 2.6	▲ 2.3	▲ 0.7	8.4
	12月	0.4	2.7	0.6	1.0	0.4	2.4	0.4	▲ 2.1	4.1	12.5
08	1月	0.3	3.1	▲ 0.3	1.4	0.3	2.8	▲ 2.4	▲ 5.8	▲ 2.2	7.1
	2月	0.5	3.6	0.4	1.8	0.4	3.3	0.5	▲ 5.3	1.6	11.0
	3月	0.5	3.9	0.4	2.3	0.5	3.6	▲ 3.0	▲ 6.8	▲ 2.7	8.3
	4月	0.8	4.0	▲ 1.4	0.7	0.8	3.7	2.5	▲ 5.9	6.6	11.9
	5月	1.2	4.9	1.7	2.2	1.1	4.7	1.7	▲ 5.6	4.2	12.5
	6月	0.9	5.8	0.8	3.2	0.8	5.4	2.8	▲ 4.1	7.3	18.8
	7月	2.3	7.5	0.7	3.7	2.1	7.0	1.2	▲ 2.8	2.7	22.2
	8月	0.1	7.6	0.1	3.7	0.1	7.0	0.1	0.5	2.2	27.8
	9月	▲ 0.6	7.0	▲ 0.3	3.5	▲ 0.5	6.5	▲ 2.9	▲ 1.5	▲ 6.6	20.5
	10月	▲ 2.1	4.5	▲ 1.2	2.0	▲ 1.9	4.3	▲ 7.5	▲ 9.5	▲ 11.2	3.6
	11月	▲ 1.8	2.4	▲ 1.5	0.0	▲ 1.7	2.2	▲ 4.5	▲ 11.3	▲ 12.4	▲ 8.6
	12月	▲ 1.1	0.9	▲ 1.0	▲ 1.6	▲ 1.1	0.7	▲ 3.8	▲ 15.0	▲ 12.2	▲ 22.9
09	1月	▲ 1.5	▲ 0.9	▲ 0.6	▲ 1.9	▲ 1.5	▲ 1.1	▲ 0.8	▲ 13.5	▲ 4.6	▲ 24.8
	2月	▲ 0.5	▲ 1.9	0.0	▲ 2.3	▲ 0.1	▲ 1.6	0.5	▲ 13.6	2.2	▲ 24.3
	3月	▲ 0.2	▲ 2.5	▲ 0.2	▲ 2.9	▲ 0.1	▲ 2.2	3.8	▲ 7.5	3.5	▲ 19.5
	4月	▲ 0.6	▲ 3.9	0.0	▲ 1.5	▲ 0.8	▲ 3.7	1.3	▲ 8.5	0.5	▲ 24.1
	5月	▲ 0.5	▲ 5.5	0.3	▲ 2.9	▲ 0.4	▲ 5.1	▲ 1.5	▲ 11.4	▲ 2.7	▲ 29.1
	6月	▲ 0.4	▲ 6.7	▲ 0.1	▲ 3.7	▲ 0.1	▲ 6.0	1.0	▲ 13.0	2.4	▲ 32.3
	7月	0.4	▲ 8.5	▲ 0.1	▲ 4.5	0.5	▲ 7.5	▲ 1.7	▲ 15.4	1.1	▲ 33.3
	8月	0.0	▲ 8.5	▲ 0.1	▲ 4.7	0.3	▲ 7.3	1.1	▲ 14.5	0.3	▲ 34.6

(出所) 日本銀行

○ 8月の国内企業物価は前年比▲8.5%

8月の国内企業物価指数は前月比 0.0%、前年比▲8.5%とコンセンサス（前月比+0.2%、レンジ：同▲0.1%～同+0.6%）を小幅下振れた。前年比でみると2ヶ月連続で過去最大のマイナス幅となり、前月比でも横ばいと物価が上昇しにくい状況が続いている。

前月比の内訳をみると、非鉄金属（前月比+5.1%、同寄与度+0.12%ポイント）、スクラップ類（同+10.7%、同寄与度+0.06%ポイント）、化学製品（同+0.6%、同寄与度+0.05%ポイント）、石油・石炭製品（同+0.8%、同寄与度+0.04%ポイント）などがプラスに寄与し、電力・都市ガス・水道（同▲1.4%、同寄与度▲0.07%ポイント）、農林水産物（同▲1.6%、同寄与度▲0.04%ポイント）、輸送用機器（同▲0.3%、同寄与度▲0.04%ポイント）一般機器（同▲0.3%、同寄与度▲0.03%ポイント）などがマイナスに寄与した。

世界経済の持ち直しを背景として、非鉄金属、原油の先物価格が上昇基調にあることから、非鉄金属、石油・石炭製品も前月比プラスとなった。また、鉄スクラップのアジア向け輸出が底堅いことから、スクラップ類がプラスとなり、化学製品も原材料であるナフサ価格の上昇を背景としてプラスとなった。

一方で、電力・都市ガス・水道は燃料費調整制度によって、過去の燃料費の下落が電気、ガス料金に反映されたことから前月比マイナスとなった。燃料費の動向が価格に反映されるまでには3～5ヶ月のタイムラグがあることから考えると、電気、ガス代は10月まで下落が続く見込みである。そのほか、8月は、輸送

用機器、一般機器、電子部品・デバイスなど機械関連の物価下落が目立つ。設備投資は弱含みでの推移が続いており、このことが物価の押し下げ圧力になっている可能性も考えられるだろう。

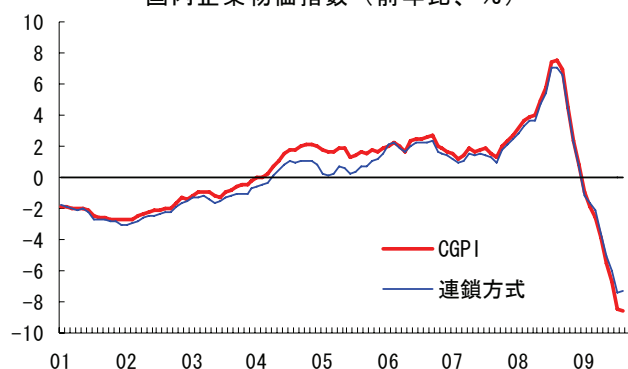
○消費財の国内品は前年比▲4.7%

国内品を需要段階別にみると、素原材料は前年比▲14.3%（7月：同▲21.0%）とマイナス幅が縮小した一方で、中間財は同▲11.3%（7月：同▲11.0%）、最終財は同▲3.6%（7月：同▲3.4%）といずれもマイナス幅が拡大した。また、消費者物価の財価格と関連の深い消費財の国内品も同▲4.7%（7月：同▲4.5%）とマイナス幅が拡大した。この結果をふまえると、8月の全国消費者物価指数（生鮮を除く総合）は、前年比▲2.4%程度（7月：同▲2.2%）と過去最大のマイナス幅を更新する見込みだ。

○今後マイナスを縮小させるもプラス転化には時間がかかる見込み

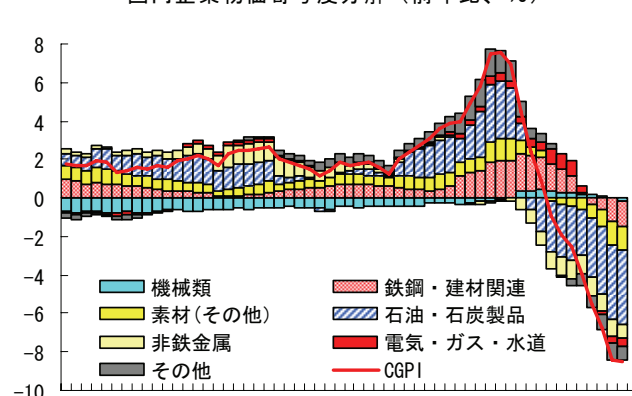
これまで前年比のマイナス幅が急拡大していた国内企業物価指数であるが、9月以降はマイナス幅を縮小させていくと考えられる。昨年同時期に急激に上昇した石油・石炭製品の影響が徐々に剥落していくことがその理由である。ただし、大幅な需給ギャップの存在に伴う物価下落圧力が強まっていること、電気、ガス料金の値下げが続くこと、足元で小麦の先物価格は軟調な推移が続いており、10月も輸入小麦の政府売り渡し価格が20%程度引き下げられる見込みであることから、年明け以降、麺類やパンなどに波及していくとみられること、為替が円高基調で推移していることなど、物価の押し下げ要因も多い。国内企業物価指数は上昇しにくい環境が当面続くと考えられる。国内企業物価指数がプラスに転化するには時間がかかるだろう。

国内企業物価指数（前年比、%）



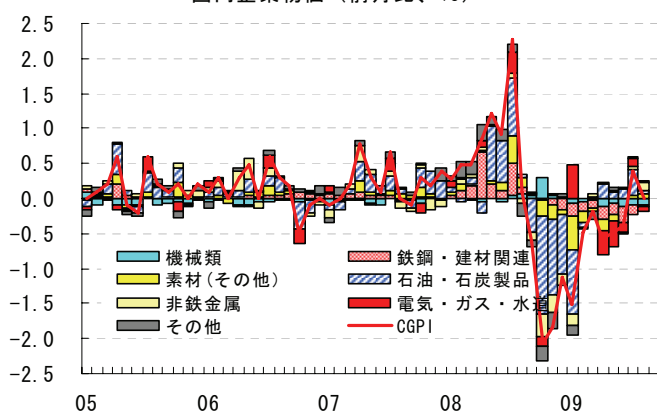
（出所）日本銀行「企業物価指数」

国内企業物価寄与度分解（前年比、%）



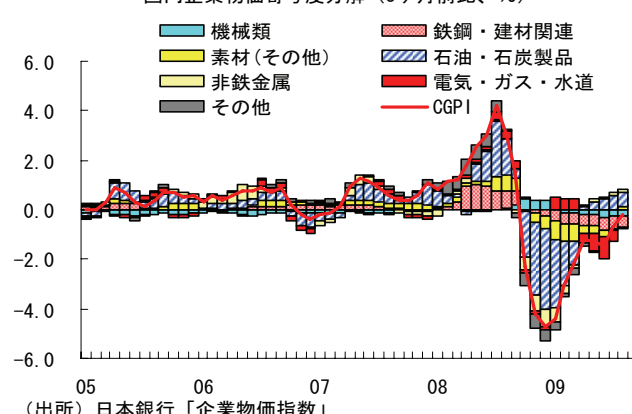
（出所）日本銀行「企業物価指数」

国内企業物価（前月比、%）



（出所）日本銀行「企業物価指数」

国内企業物価寄与度分解（3ヶ月前比、%）



（出所）日本銀行「企業物価指数」

